

くずまき夏まつり

くずまき夏まつりは8月17日、葛巻小グラウンドで開催され、家族連れなど約2500人が会場を訪れ、夜空に浮かぶ3000発の花火を満喫しました。

町商工会青年部（前野副部長、部員34人）主催の「くずまき夏まつり」は8月17日、葛巻小グラウンドで行われました。

台風の影響が考慮され、16日の開催予定を17日に延期して開催。会場には葛巻の夏を楽しもうと、帰省中の家族連れなど約2500人が訪れました。

開会セレモニーで前野部長は「日程を変更したにもかかわらず、ご協力、ご参加いただき大変ありがとうございます」と挨拶を述べました。

午後4時、屋台村がオープンすると続々と人が詰め掛け、浴衣をまとった涼しげな装いが、いっそう目を

引いていました。

商工会、農業協同組合、森林組合の各青年部による「新学びレッジ」には、小学生らが参加。町の基幹産業（農業、林業、工業）を体験しました。四日市俵汰くん（葛巻小2年）は「ドローンが面白かった」と充実した表情をのぞかせ、元気いっぱい楽しんでいました。

また、ステージでは葛巻保育園児がかわいらしい踊りを披露し、会場に花を添えていました。

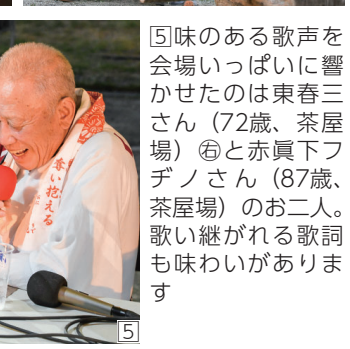
今回の輪踊りは30分早く開始され、太鼓の音が響き渡ると少しずつ踊りの輪に加わる人が増え、会場いっぱいになりました。

また、夏まつりを締めくくる3000発の花火は、夜空に大輪の花を咲かせては消え、くずまきの夏の終わりを告げているようでした。

また、夏まつりを締めくくる3000発の花火は、夜空に大輪の花を咲かせては消え、くずまきの夏の終わりを告げているようでした。



①お菓子取り競走②元気いっぱいの演技を披露する園児たち③林業体験をする児童④にぎわいが増す夏まつり会場



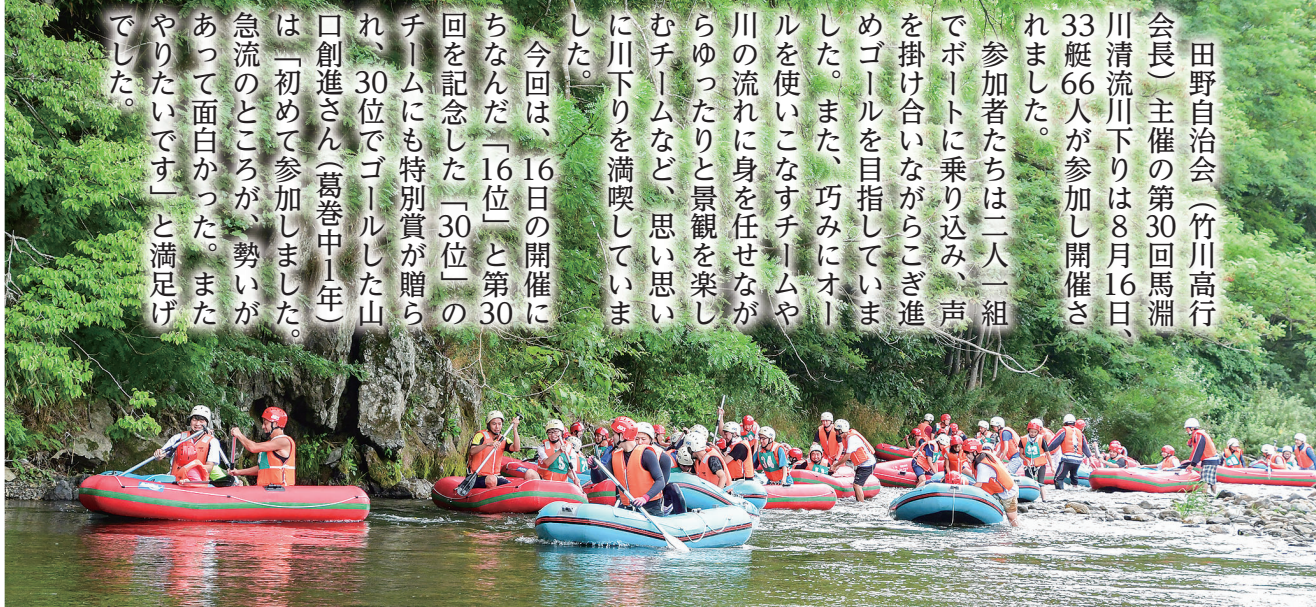
⑤味のある歌声を会場いっぱいに響かせたのは東春三さん（72歳、茶屋場）⑥と赤真下フヂノさん（87歳、茶屋場）の二人。歌い継がれる歌詞も味わいがあります



⑦新町自治会館で行われた浴衣の着付けサービス。手際よくあっという間に着付けてもらえます



第30回馬淵川清流川下り



田野自治会（竹川高行会長）主催の第30回馬淵川清流川下りは8月16日、33艇66人が参加し開催されました。

参加者たちは二人一組でボートに乗り込み、声を掛け合いながらこぎ進めゴールを目指していました。また、巧みにオールの流れに身を任せながらゆったりと景観を楽しみ、チームなど、思い思いに川下りを満喫していました。

今回は、16日の開催にちなんで「16位」と第30回を記念した「30位」のチームにも特別賞が贈られ、30位でゴールした山口創進さん（葛巻中1年）は「初めて参加しました。急流のところ、勢いがあって面白かった。またやりたいです」と満足げでした。

道の駅くずまき高原でめざまし作戦&スマートアシスト試乗会

町交通安全対策協議会主催の「めざまし作戦」は8月9日、道の駅くずまき高原の駐車場で行われ、交通指導隊や交通安全母の会、小田防犯少年隊など36人が参加し、ドライバーに「交通安全に気を付けてください」と声を掛けながらくずまき高原牛乳や反射材などを配布しました。

初めて参加した近藤琴音ちゃん（葛巻小1年）は「声を掛けるのが難しくて、できるかなと思ったけれど、できたので良かったです」と少し自信をのぞかせ、竹川杏夏ちゃん（同3年）は「上手にできて良かったです」と胸を張りました。「めざまし作戦」は夏休みやお盆の帰省客など、車での移動が多くなるこの時期に合わせて毎年行われています。

また、同日、トヨタグループが取り組む地域貢献プロジェクトの一環として、スマートアシストが体験できる試乗会が開催されました。乗車した人たちは衝突を回避する自動ブレーキの衝撃に驚きながらも、センサーが感知した状態ではアクセルを踏んでも前に進まない確かな性能に感心した様子でした。



ドライバーに安全運転を呼び掛けながらくずまき高原牛乳を手渡す児童⑧とスマートアシストの試乗会の様子